

学 位 論 文 の 要 旨

論文題目 看護師の共感疲労を規定する要因に関する研究

広島大学大学院総合科学研究科
総合科学専攻
学生番号 D155834
氏 名 蔭谷 陽子

論文の要旨

本研究の目的は、看護師の共感疲労に着目し、看護師に共感疲労が引き起こされる要因及びその影響過程を明らかにすることである。

第1章では、看護師の共感疲労に関連する要因に関するレビューを行い、仮説モデルを提示した。共感疲労とは、高い共感性が原因で援助者自身に心身の問題を引き起こした状態であり、バーンアウトの原因の一つとなっている。共感疲労は、看護や介護などのサービスを提供する職業に従事する人々に生じやすく、特に、看護師に引き起こされやすいことが指摘されている。さらに、共感疲労が原因でケアや援助の質の低下を引き起こし、対象者との関係性の悪化や仕事上のミス、医療事故などにつながる可能性もある。そのため、共感疲労をいかに予防するかが重要な課題となっている。

看護師が共感疲労を引き起こしやすいのは、看護師の共感性の高さだけでなく、患者の不安や苦痛を少しでも緩和・軽減するように心理的・行動的に深く関わることに関連していると指摘されている。しかし、看護師の共感性の高さが患者への過度な関与を引き起こす影響過程、及び関連要因に関する検討は行われていない。本研究は、看護師の共感性や患者への過度な関与への促進要因と抑制要因を検討し、看護師に共感疲労が引き起こされる影響過程を解明することを目的とする。共感疲労に及ぼす影響要因として患者への過度な関与、職業的アイデンティティ、職業コミットメント、完全主義、セルフ・コントロールを取り上げ、共感疲労への影響過程を明らかにする。

第2章（研究1）では、看護師の職業的アイデンティティと職業コミットメントが共感疲労に至る影響過程を検討した。その結果、看護師の職業的アイデンティティと職業コミットメントは共感疲労を直接、抑制しないことがわかった。また、共感性は患者への過度な関与を媒介することで、共感疲労を引き起こすことがわかった。看護師の職業的アイデンティティは共感性を促進し、職業コミットメントは患者への過度な関与を促進することで、間接的に共感疲労を高めていることがわかった。先行研究では、職業的アイデンティティと職業コミットメントが適応的に働くと考えられていたが、研究1では共感疲労に結び付くという不適応性が確認された。

第3章（研究2）では、完全主義が患者への過度な関与を媒介して共感疲労を引き起こすのかを検討した。その結果、看護師の完全主義傾向は、患者への過度な関与を媒介して共感疲労を促進することに加え、共感疲労を直接高めるという部分媒介であることがわかった。また、看護師の完全主義傾向から共感疲労へ至る過程において、完全主義傾向から共感疲労への直接的な影響よりも患者への過度な関与を媒介した共感疲労への影響の方が強いことがわかった。

第4章（研究3）では、看護師のセルフ・コントロール能力が患者への過度な関与に及ぼす共感性の影響を抑制するという調整効果が認められるかを検討した。その結果、看護師のセルフ・コントロールの調整効果は認められなかった。看護師の共感性とセルフ・コントロールが患者への過度な関与を促進させることがわかった。看護師のセルフ・コントロールが患者への過度な関与を促進させるという結果は、仮説とは逆の結果となった。これは、看護師の行うセルフ・コントロールは看護師自身

のために行っているのではない可能性を示唆する結果である。

第5章(研究4)では、セルフ・コントロールの対象が患者であるのか、あるいは看護師自身(自己)であるのかに分けて、患者への過度な関与に影響する看護師の共感性の効果を調整するのか、あるいは媒介するのかを検討した。その結果、患者及び自己のためのセルフ・コントロールは看護師の共感性が患者への過度な関与に及ぼす影響を調整しないことが分かった。看護師の共感性は患者と自己のためのセルフ・コントロールとともに促進させ、両セルフ・コントロールを媒介して患者への過度な関与に影響するという媒介効果が認められた。患者のためのセルフ・コントロールは患者への過度な関与を促進させ、自己のためのセルフ・コントロールは患者への過度な関与を抑制するというように、セルフ・コントロールの対象によって患者への過度な関与への影響に違いが認められた。媒介効果の程度を検討した結果、看護師は、自己のためのセルフ・コントロールよりも患者のためのセルフ・コントロールを優先的に採用していることがわかった。

第6章(研究5)では、職業的アイデンティティと職業コミットメントが主観的義務感と、患者と自己のための両セルフ・コントロールに及ぼす影響について検討した。その結果、職業的アイデンティティは、患者と自己のためのセルフ・コントロールとともに直接、促進することがわかった。職業コミットメントは、患者のためのセルフ・コントロールを促進する一方で、自己のためのセルフ・コントロールを抑制することがわかった。職業的アイデンティティは自己のためのセルフ・コントロールを促進するという適応的に影響するものの、職業コミットメントは自己のためのセルフ・コントロールを抑制することから、適応的だといわれている職業コミットメントが不適応的な関わりをしていることが明らかになった。また、職業的アイデンティティと職業コミットメントはいずれも主観的義務感を促進させ、患者のためのセルフ・コントロールを促進させることが明らかになった。このことから、看護師においては、職業的アイデンティティは適応性と不適応性という異なる2つの側面をもつ可能性があり、職業コミットメントは不適応に働く可能性があることがわかった。

第7章(研究6)では、患者と自己のためのセルフ・コントロールの実施の程度が患者への過度な関与と職務満足感や共感疲労、ストレス反応への影響過程を検討した。その結果、患者のためのセルフ・コントロールを行うことで職務満足感を高めるものの、患者への過度な関与を促進させ、共感疲労やストレス反応を高めていることがわかった。一方、自己のためのセルフ・コントロールは職務満足感を高めるとともに、患者への過度な関与及びストレス反応を抑制することから、看護師の適応性を高めることがわかった。患者のために行うセルフ・コントロールは、共感疲労やストレス反応を引き起こすという不適応性を高めるものの、患者のために尽くしたという思いが職務満足感を高めると考えられる。

第8章(総合考察)では、研究1から研究6までの知見をもとに、看護師に共感疲労が引き起こされる影響過程とその諸要因との関係性についての結果をまとめ、影響過程について考察した。看護師に共感疲労が引き起こされる過程をまとめると、大きく4つの過程から構成されることがわかった。それを以下に示す。

- (1) 共感性が患者への過度な関与を介して共感疲労を引き起こす過程
共感性は、職業的アイデンティティによって促進されることで患者への過度な関与につながり、その結果、共感疲労やストレス反応を引き起こす。
- (2) 完全主義が患者への過度な関与を介して共感疲労を促進する過程
完全主義は、患者への過度な関与を促進することで共感疲労やストレス反応を引き起こす。
- (3) 患者のためのセルフ・コントロールが患者への過度な関与を介して共感疲労を促進する過程
患者のためのセルフ・コントロールの実施は、職業的アイデンティティや共感性、主観的義務感によって高められることで、患者への過度な関与につながり、その結果として共感疲労やストレス反応を引き起こす。
- (4) 自己のためのセルフ・コントロールが患者への過度な関与を抑制して共感疲労を低減する過程
自己のためのセルフ・コントロールの実施は、職業コミットメントによって抑制されるものの、共感性と職業的アイデンティティによって促進され、その結果として患者への過度な関与を抑制することで共感疲労やストレス反応を低減させることにつながる。また、自己のためのセルフ・コントロールの実施は職務満足感も高める。

これらのいずれの過程においても、患者への過度な関与を媒介することで共感疲労に至っていることから、患者への過度な関与が共感疲労を引き起こす中核的な規定因となっていることがわかった。